

# 「労働時間に関するアンケート調査（妻調査）」

## —— 妻からみた夫の労働時間 ——

労働時間の問題を考える際には、働く人自身や雇用（使用）している企業の視点がもとより重要であるが、それとともに、長時間労働の問題に対応するための「もう一つ」の視点として、家庭生活の視点（ワークライフバランスの視点）も同様に重要である。このため JILPT では、夫の（長い）労働時間についてその健康面を含め妻がどのように考えているのか、また、夫の労働時間の長さが妻自身の就業面などの生活設計や満足度にどの程度影響しているのかのデータを得ること目的として「労働時間に関するアンケート調査（妻調査）」を実施した。

### 調査結果のポイント

#### ＜妻からみた夫の仕事行動＞（4～5ページ参照）

普段の日、夫が出勤する時刻はある程度決まっていることが多いが、仕事から帰宅する時刻は日によって違うことが多い。夫が出勤のため家を出てから帰宅するまでの時間（仕事外出時間）は11～13時間台であるとする妻が4分の3を占めているが、14時間以上も13.4%いる。休日において出勤や自宅での仕事など定常外の仕事行動をする夫もかなりいる。こうした夫の仕事行動がベースとなって、以下にみるように妻の生活や就業、満足度に様々な影響を与えている。

#### ＜夫の仕事時間に対する妻の希望＞（6～7ページ参照）

夫の仕事時間を「もっと短くして欲しい」と考えている妻は33.0%で、夫が中間的な管理職にある場合に相対的に多くなっている。妻が夫の仕事時間を短くして欲しいとする理由は、「少し無理をしているから」（71.0%）といった夫の健康面への気づかいのほか、「家族と過ごす時間を増やす」（51.3%）や「子育て」や「家事」の分担など夫が家庭生活に一層参加することを望んでいることによる。

夫の仕事外出時間が13時間以上になると、夫の仕事時間が「いまくらいでちょうどよい」とする妻の割合よりも「もっと短くして欲しい」とする妻の割合の方が大きくなる。普段の日、夫が帰宅後次に出勤するまでに11時間程度あることが妻にとって許容度の大きなターニング・ポイントであるといえる。

#### ＜結婚当時の妻の家事分担イメージとその実現度＞（8～9ページ参照）

結婚ときに妻が抱いていた家事分担イメージが実現できている妻は48.6%にとどまり、「ほとんど実現していない」が18.1%、「どちらともいえない」が24.9%となっている。「夫婦で協力・分担」など夫の家事参加を求める家事分担イメージでは相対的に実現度が低くなっている。また、夫の仕事外出時間が長い妻ほど、また夫が休日出勤など定常外の仕事行動をする頻度が高いほど実現度が低くなっている。

#### ＜結婚当時の妻の欲しい子供人数希望とその実現度＞（10～11ページ参照）

結婚ときに欲しい子供人数の希望があった妻は54.0%で、若い層ほどその割合は高い傾向がみられる。その希望が「実現した（しそう）」とする妻は64.5%であり、「希望をより少なくなった（なりそう）」とする妻は26.6%にとどまっているが、若い層ほど「少なくなった（なりそう）」とする割合がやや高い傾向がみられる。子供が希望人数よりも「少なくなった（なりそう）」ことの原因の一つとして夫の仕事時間の長さがあると思う割合（「そう思う」と「ある程度関係している」の合計）は23.6%であるが、30～34歳では39.1%と相対的に多くなっている。妻の意識としても、若い層を中心に夫の長い仕事時間が希望する人数の子供を持ってない要因の一つになっている場合が少なくないといえる。

#### ＜結婚当時の妻自身の就業継続希望とその実現度＞（11～13ページ参照）

結婚当時における妻自身の職業生活イメージは、「一時期仕事を離れ子育て後再就業」が50.8%でもっとも多くなっているが、結婚当時の会社で、又は勤め先は変えても就業を継続することを希望する妻は18.1%で、とりわけ30代では23%程度と相対的に高くなっている。そうした就業継続希望が実現したとする妻の割

合は半数を超えているが、実現しないとする妻も4割近く（38.7%）いる。就業継続希望が実現しなかった（しなさそう）理由の一つとして夫の仕事時間の長さがあると思う割合は24.3%であるが、30～34歳では36.4%と相対的に多くなっている。さらに、上述の家事分担イメージの実現状況を加味してみると、家事分担イメージが実現したとする妻よりも実現しないとする妻の方が、夫の仕事時間の長さとの関連を挙げる割合が高くなっている（28.6%/18.3%）。就業継続希望が実現しないことと夫の仕事時間の長さとの関連のルートとして、夫の長時間の仕事→家事負担の妻への集中→就業継続の断念といった連鎖をデータからも考えることができる。

#### **<妻の満足度>**（14～16 ページ参照）

妻の満足度を概観すると、生活全般及び各項目の満足度は「まあまあ満足」域にあるが、「夫の夫自身の健康配慮度」に関する満足度のみは「満足」と「不満」の境界域にあり、低くなっている。夫に対して夫自身の健康にもっと気をつけて欲しいと思っている妻が多いことが窺われる。

普段の日の夫の仕事外出時間別に満足度をみると、「夫自身の健康配慮度」や「家事参加度」、「家族関心度」といった夫の行動面に関する妻の満足度は、仕事外出時間が長くなるほど低下する傾向がみられる。一方、生活全般満足度を含めて妻自身の生活に関する満足度は、夫の仕事外出時間が14時間台まではほぼ横ばい域で推移しているが、14時間台を超えると急激に低下している。

上述の家事分担イメージ、欲しい子供人数、就業継続といった結婚当時の妻の希望が実現しないことは、ほとんどすべての項目の満足度を下げることとなっている。その中で、家事分担イメージの実現の有無は夫の「家事参加度」や「家族関心度」に関する満足度に大きな違いをもたらせ、また、就業継続希望の実現の有無は「妻自身の職業生活」や「妻自身の生きがい」に関する満足度に大きな違いをもたらせている。妻の就業継続希望をはじめとする職業生活（キャリア）イメージの実現に配慮すること、そのため夫の仕事時間をより適切な長さにすることの重要性が示唆されている。

#### **<妻の求める夫の時短方法>**（16～17 ページ参照）

妻の求める夫の仕事時間の短縮方法は、普段の時間短縮、連続休暇を長くする、又はその両方と区々である。夫の仕事外出時間が長くなるほど普段の時間短縮を望む妻の割合が高くなり、また、過去1年間に夫に連続休暇がなかった妻では連続休暇を長くすることを望む妻の割合が高くなっている。こうした妻（家族）の希望も十分考慮した時短方法のベスト・ミックスを講じることも重要であるといえる。少なくとも「休んでもすることがない」と考えて長時間勤務を行い、また、休暇を取ろうとしない夫がいるとしたら、妻や家族を振り返ることも求めたい。

# I 調査の概要

## 1. 調査の対象、方法、実施時期、回答状況

本調査は、長時間労働の実態とその要因を把握することを目的に実施された「労働時間に関するアンケート調査」(昨年12月に記者発表済み)に併せて、その調査の対象となった男性正社員の妻を対象に実施されたものである。

労働時間の問題を考える際には、働く人自身や雇用(使用)している企業の視点がもとより重要であるが、それとともに、家庭生活の視点(ワークライフバランスの視点)も同様に重要である。この調査により、夫の(長い)労働時間についてその健康面を含め妻がどのように考えているのか、また、夫の労働時間の長さが妻自身の就業面などの生活設計や満足度にどの程度影響しているのかを把握することを通じて、長時間労働の問題に対応するための「もう一つ」の視点を提供することを目的とした。

調査対象: 上記「労働時間に関するアンケート調査」の対象者(20歳以上60歳未満の男女正社員10,000人)のうち、男性で妻がいる5,850件について、同調査に併せて「妻調査票」を送付し、妻からの回答を求めた。

抽出方法: 「労働時間に関するアンケート調査」の対象者は、(株)インテージの郵送調査モニターから、管理職層及び非管理職層別にそれぞれ5,000人が、それぞれ厚生労働省「賃金構造基本統計調査」(平成20年)における性・年齢別構成に応じて無作為に抽出された。本調査は、そのうち男性で妻がいると登録されていた人の妻が対象となった。

調査方法: 調査票による郵送調査

調査期間: 平成22年2月

有効回答数: 5,060人(有効回答率86.5%)

(「妻調査」(ケース数: 5,060件)のほか、「夫調査」とのマッチング・データ(ケース数: 4,945件)が得られた。)

※詳細な調査結果と分析結果は、JILPT労働政策研究報告書No.127として公表予定。

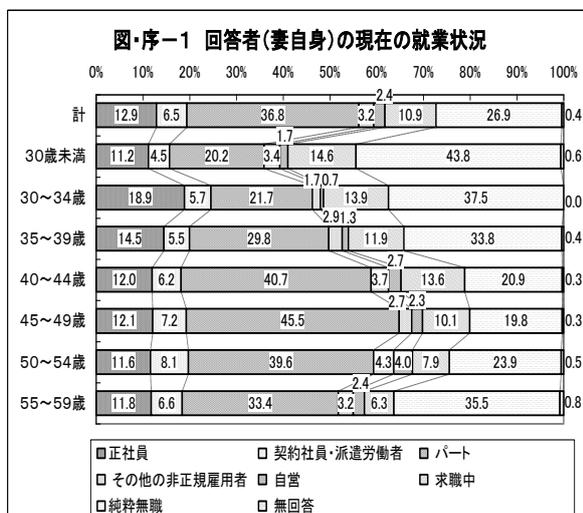
## 2. 回答者(妻自身)の属性

表・序-1 回答者(妻)の年齢・学歴構成

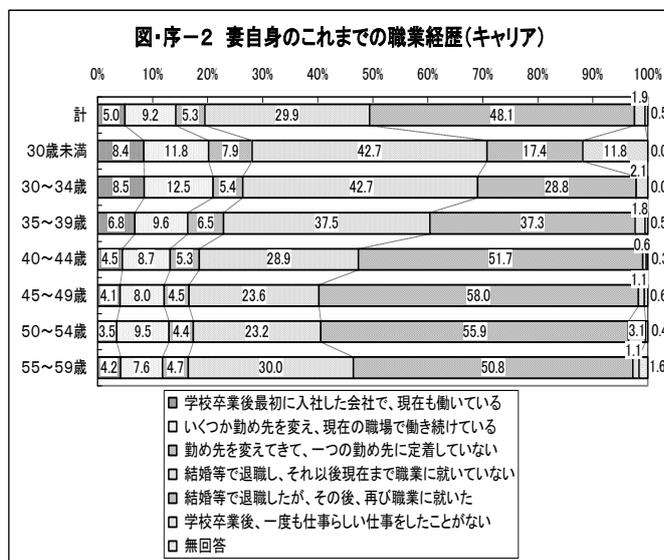
(%)									
年齢計	30歳未満	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60歳以上	無回答
100.0	3.5	8.4	16.6	22.7	22.2	18.0	7.5	1.0	0.0

学歴計	中学校卒	高等学校卒	専修学校・ 各種学校卒	短大・ 高専卒	4年制 大学卒	大学院 (修士課程 修了)以上	無回答
100.0	1.4	35.9	13.8	27.5	20.3	0.7	0.3



(注)「求職中」・・・現在働いていないが、仕事を探している。  
「純粋無職」・・・現在働いていないし、当面仕事をすつもりもない。



## II 主な調査結果の概要

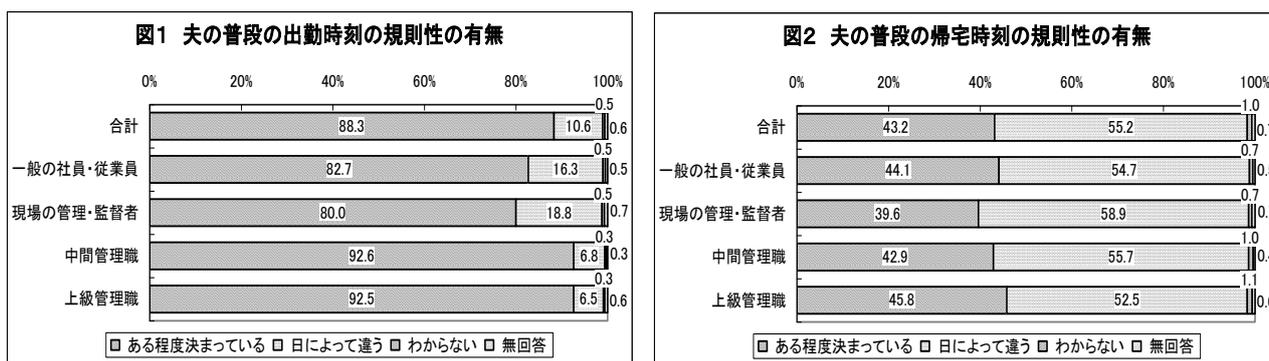
### 1. 妻（生活時間の観点）からみた夫の仕事行動

#### （夫の出勤・帰宅時刻の規則性）

○普段の日、夫が出勤する時刻はある程度決まっていることが多いが、仕事から帰宅する時刻はそうではないことが多い。（図1、図2）

普段の日、夫が出勤のために自宅を出る時刻が「ある程度決まっている」とする妻が88.3%で大抵の夫は毎日同じような時間に勤務先へと向かうのに対して、仕事から帰宅する時間が「ある程度決まっている」とする妻は43.2%と少なくなり、「日によって違う」とする妻が55.2%と半数を超えている。

これを夫の会社等での地位別にみると、夫が現場の管理・監督者である場合、相対的にこの傾向が強い。



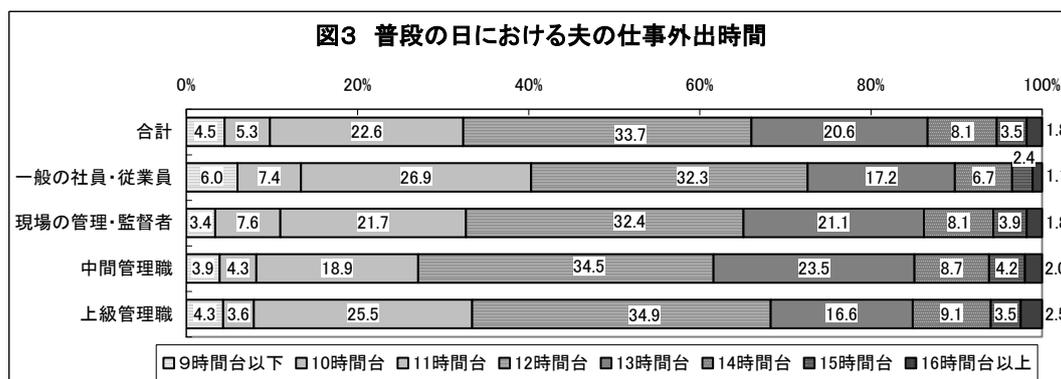
（注）合計には、夫の会社等での地位が「わからない」及び「無回答」が含まれている。（以下図5まで同じ。）

#### （夫の仕事外出時間数）

○普段の日、夫が出勤してから帰宅するまでの時間は、11時間～13時間台が多い。（図3）

普段に日において、夫が出勤してから帰宅するまでの時間数（「仕事外出時間」）をみると、「12時間台」とする妻が33.7%と最も多く、次いで「11時間台」22.6%、「13時間台」20.6%などとなっている。「14時間」を超えるとする妻も13.4%いる<sup>2</sup>。

夫の会社等での地位別にみると、管理的な地位にある夫に長い人が多くなっており、とりわけ「中間管理職」の夫が最も多くなっていることが窺われる。



（注）「仕事外出時間」：普段の出勤時刻から帰宅時間までの時間数（一部推計を含む。）

<sup>1</sup> 調査では、出勤時刻、帰宅時刻に「規則性がある」とする場合にそれぞれの時刻を回答してもらっている。その回答結果と、マッチング・データの「夫調査」から得られる労働時間、通勤時間等のデータを使って「規則性がない」場合も「仕事外出時間」を推計している。（推計方法の詳細は、JILPT 労働政策研究報告書No.127 の83ページを参照されたい。）

<sup>2</sup> 例えば「12時間台」は、その中間をとって12時間半としてみると、午前7時30分頃に家を出て、午後8時頃に帰宅するといったイメージである。

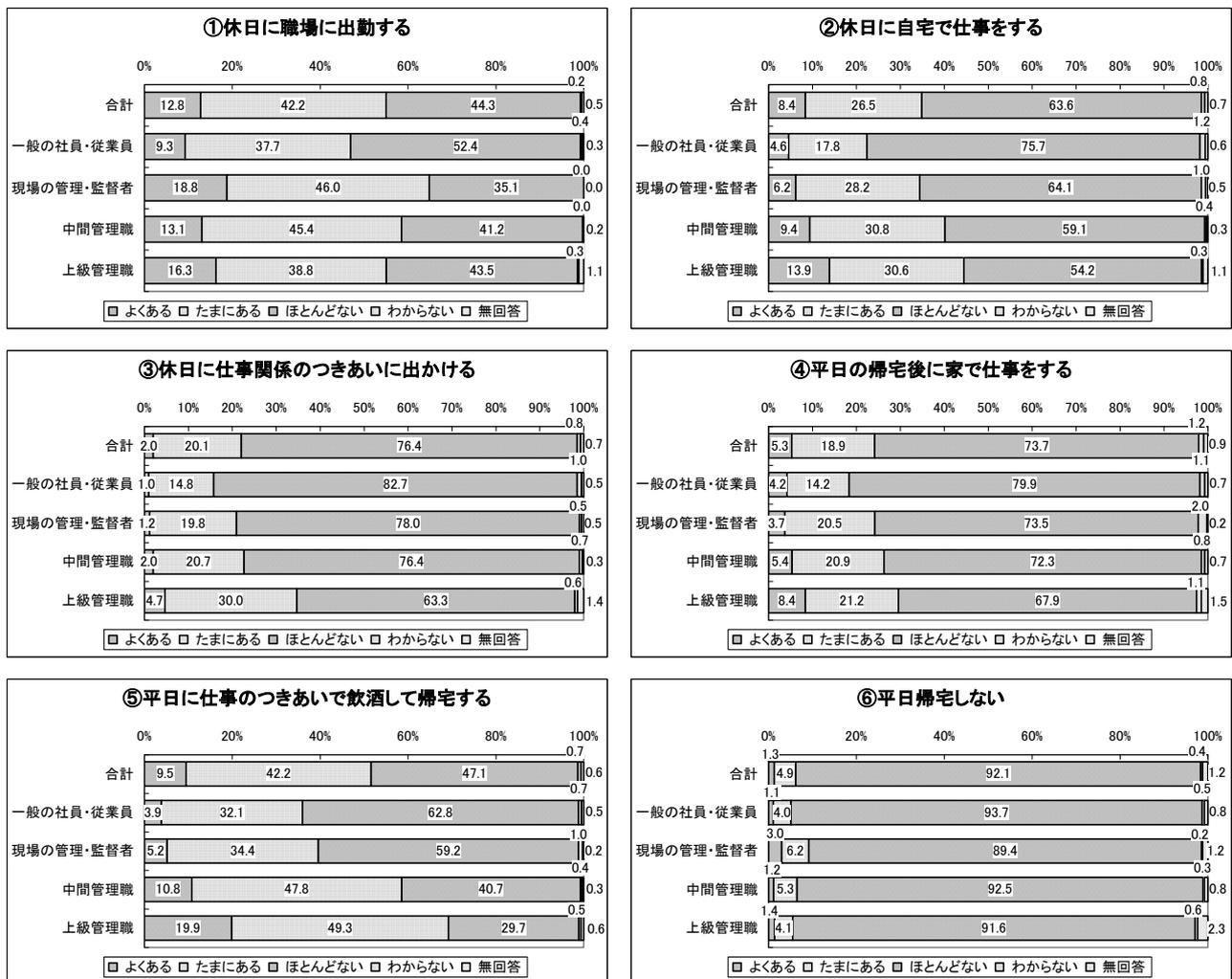
## （夫の定常外仕事関係行動の頻度）

○半数以上が休日出勤するなど、定常外に仕事関係の行動をする夫が少なくない。（図4）

夫が休日に職場に出勤することが「よくある」とする妻 12.8%、「たまにある」42.2%と合わせて 55.0%、半数を超える妻が、夫は休日出勤することがあるとしている。他の定常外仕事関係行動について「よくある」と「たまにある」とを合わせた割合をみると、休日に自宅で仕事をする（休日在宅仕事）が 34.9%、休日に仕事関係のつきあいに出かける（休日つきあい外出）22.1%、平日の帰宅後に仕事をする（平日持ち帰り仕事）24.2%、平日に仕事のつきあいで飲酒して帰宅する（つきあい飲酒）51.7%、平日帰宅しない（泊まり）6.2%となっている<sup>3</sup>。

会社等での地位別にみると、「休日在宅仕事」や「休日つきあい外出」、「平日持ち帰り仕事」、「つきあい飲酒」では地位が高くなるほど多くなる傾向にあり、一方「休日出勤」や「泊まり」は現場の管理・監督者でもっとも多くなっている。

図4 夫の定常外仕事行動の頻度



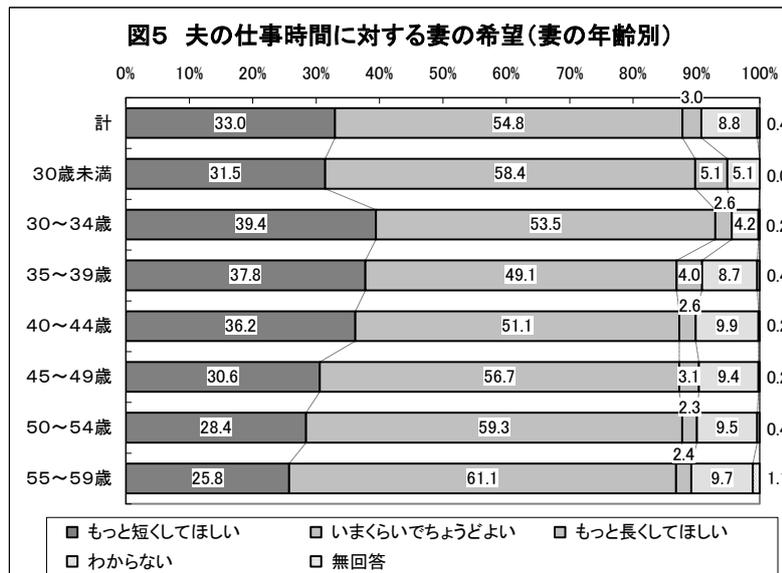
<sup>3</sup> 「泊まり」については、「輸送・運転の仕事」や「警備・清掃・その他の仕事」といった仕事の特性上終夜勤務が想定される職種の夫で多い傾向があるものの、これら以外の職種でもみられている。

## 2. 夫の仕事時間に対する妻の希望

### (夫の仕事時間の長さへの妻の希望)

○夫の仕事時間をもっと短くして欲しいとする妻は33.0%で、年齢別には30代から40代の前半の妻により多くなっている。(図5)

夫の仕事時間(の長さ)に対する妻の希望をみると、「いまくらいでちょうどよい」とする妻が54.8%と半数を超えている中で、「もっと短くして欲しい」とする妻が33.0%と3分の1程度いる<sup>4</sup>。年齢別にみると、30代及び40代前半の妻で30%台後半と相対的に多くなっている。



### (短くして欲しい理由)

○妻が夫の仕事時間を短くして欲しいとする理由は、夫の健康面への気づかいと家庭生活への一層の参加が多い。(表1)

夫の仕事時間を短くして欲しいとした妻がそう希望する理由をみると、「少し無理をしていると思うから」が71.0%と7割を超えもっとも多く、次いで「家族と過ごす時間を増やして欲しい」が51.3%となっている。

妻の年齢別にみると、「少し無理をしていると思うから」は40代後半以降で相対的に多い一方、「家族と過ごす時間を増やして欲しい」は40代前半までの層で相対的に多くなっている。また、より若い層では、「早く帰宅して子育てを分担して欲しい」や「早く帰宅して家事を分担して欲しい」が相対的に多くなっており、夫の育児や家事への参加を求めていることが窺われる。

**表1 夫の仕事時間を短くしてほしい理由(妻の年齢別)**

(短くしてほしい妻)

(複数回答、%)

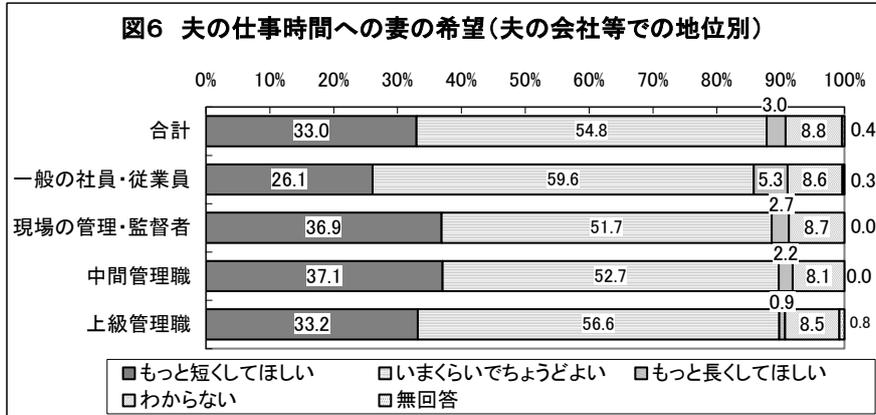
	少し無理をしていると思うから	家族と過ごす時間を増やして欲しい	早く帰宅して子育てを分担して欲しい	早く帰宅して家事を分担して欲しい	ご主人自身の趣味を大切にしたい	そうあくせく働かなくてもよいから	その他
計	71.0	51.3	15.7	11.3	12.7	12.3	6.6
30歳未満	60.7	73.2	42.9	17.9	10.7	12.5	1.8
30~34歳	64.1	64.1	34.1	18.0	10.8	6.6	5.4
35~39歳	66.0	62.3	27.7	13.5	8.5	10.7	6.0
40~44歳	70.0	56.0	17.1	11.3	11.5	9.9	6.0
45~49歳	74.1	43.4	5.2	7.9	15.7	13.1	6.7
50~54歳	78.4	33.2	1.5	10.4	15.8	15.8	8.5
55~59歳	77.6	40.8	0.0	4.1	15.3	22.4	10.2

<sup>4</sup> 一方「長くして欲しい」とする妻も数%みられるが、その理由をみると「生活費が苦しいから」など収入に関連した要因が多く挙げられている。

### (夫の会社等での地位別にみた妻の希望)

○夫の仕事時間に対する妻の時短希望は、中間管理職層で相対的に多い。(図6)

夫の仕事時間について「もっと短くしてほしい」とする妻の割合を夫の会社等での地位別にみると、一般の社員・従業員では 26.1%であるのに対して、管理的地位にある場合は 30%台と多くなっており、とりわけ中間管理職 (37.1%)、現場の管理・監督者 (36.9%) といった中間管理職層で多くなっている。



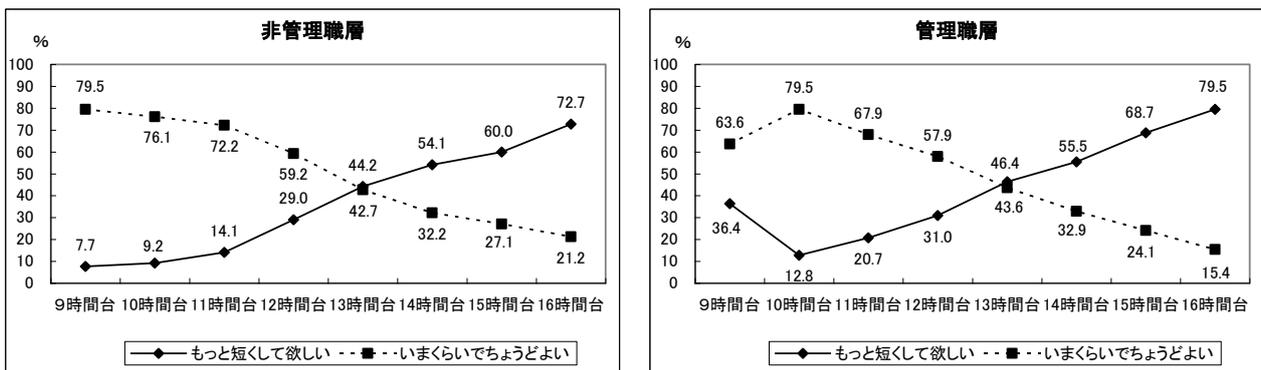
### (夫の仕事外出時間別にみた妻の時短希望)

○夫の仕事時間に対する妻の時短希望は、夫の仕事時間が長くなるほど多くなり、夫の出勤から帰宅までの時間が 13 時間を超えると「いまくらいでちょうどよい」を上回る。(図7)

夫の仕事時間 (の長さ) に対する妻の希望を夫の仕事外出時間別にみると、非管理職層、管理職層いずれにおいても、それが長くなるほど「いまくらいでちょうどよい」とする妻の割合が低くなり、代わって「もっと短くしてほしい」の割合が高くなっている<sup>5</sup>。

その結果、仕事外出時間が 12 時間台までは「いまくらいでちょうどよい」とする割合が「もっと短くしてほしい」とする割合を上回っているが、13 時間台で「いまくらいでちょうどよい」が非管理職層で 42.7% (管理職層では 43.6%) であるのに対して「もっと短くしてほしい」が 44.2% (同 46.4%) と割合が逆転する。13 時間程度が妻からみた夫の仕事外出時間の長さに対する許容度のターニング・ポイントといえそうである<sup>6</sup>。

**図7 夫の仕事時間に対する妻の希望(夫の仕事外出時間別)**



(注) それぞれ時短希望(「夫の仕事にかかる時間を減らして欲しい」と「いまくらいでちょうどよい」とした妻の割合である。  
「仕事外出時間」: 普段の出勤時刻から帰宅時間までの時間数(一部推計を含む。)

<sup>5</sup> 図7では、管理職層の「9時間台」で時短希望が相対的に多くなっているが、これは健康状況など他の要因が影響しているものと考えられる。  
<sup>6</sup> 仕事外出時間が 13 時間程度ということは、逆にいえば、普段の夫の在宅時間が 11 時間程度ということである。朝夕の食事、入浴、睡眠、身支度など、夫の必要時間がまあまあ取り得る最小の時間数と考えられる。

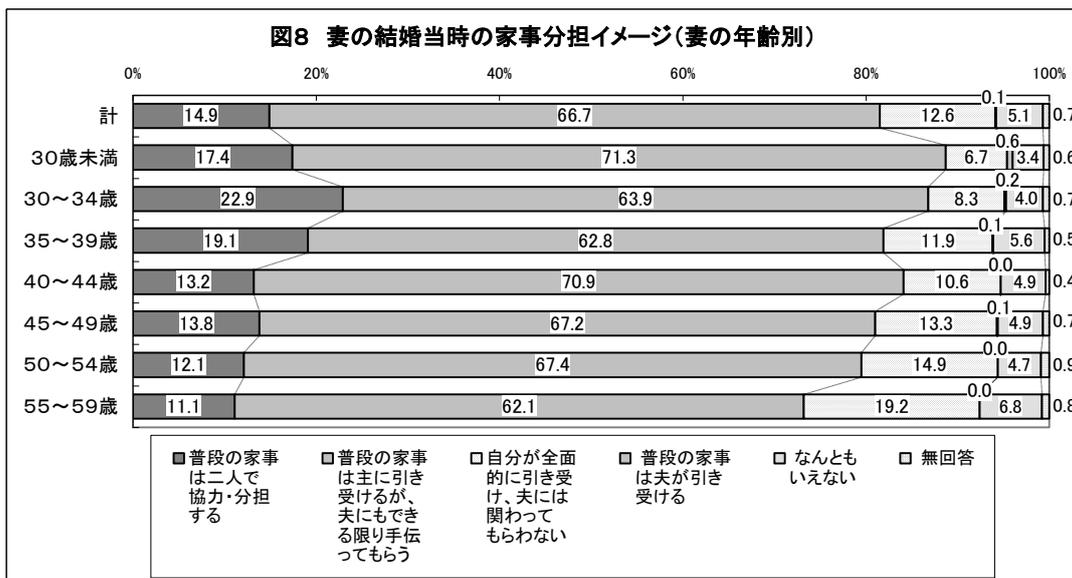
### 3. 結婚当時の妻の家事分担イメージとその実現度

#### (結婚当時の妻の家事分担イメージ)

○結婚当時の妻の家事分担イメージは、「主に引き受け夫が協力」が3分の2を占めるが、若い層では「夫婦で協力・分担」も多くなってきている。(図8)

結婚時代に妻が抱いていた普段の家事分担のイメージをみると、「主に引き受けるが夫にもできる限り手伝ってもらおう」が66.7%と3分の2を占めており、次いで「二人(夫婦)で協力・分担する」が14.9%、「全面的に引き受け、夫には関わってもらわない」12.6%などとなっている。

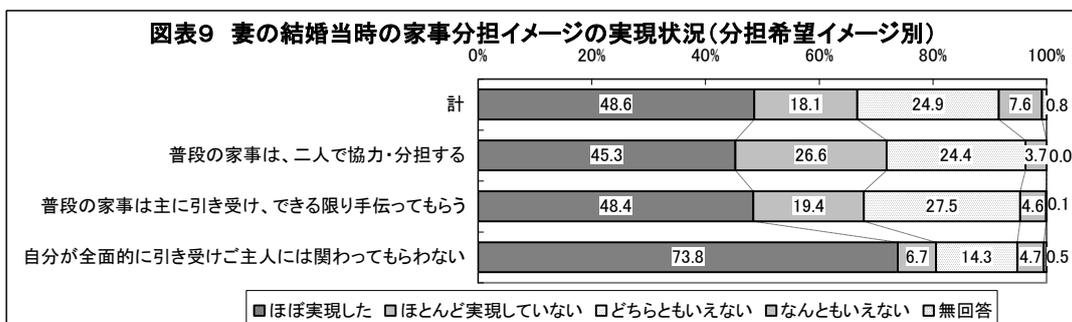
年齢別にみると、年齢が高い層から若い層へと従って「妻全面引き受け」の割合が小さくなる一方で40代までは特に「妻が主に引き受け夫が協力」が、それより若い層ではとりわけ「夫婦で協力・分担」の割合が高くなっており、30代前半層では「夫婦で協力・分担」が2割を超える一方「妻全面引き受け」は一桁台となっている<sup>7</sup>。



#### (家事分担イメージの実現状況)

○結婚時の家事分担イメージが実現できている妻は半数弱にとどまり、夫の参加を求めるイメージの実現度は相対的に高くない。(図9)

妻が抱いていた結婚時の家事分担イメージの実現状況をみると、「実現した」とする妻は48.6%と半数弱となっており、「ほとんど実現していない」が18.1%、「どちらともいえない」24.9%となっている。イメージ別にみると、「妻全面引き受け」を想定していた妻では73.8%が「実現した」としているのに対して、「妻が主に引き受け夫が協力」や「夫婦で協力・分担」では4割台にとどまっている。

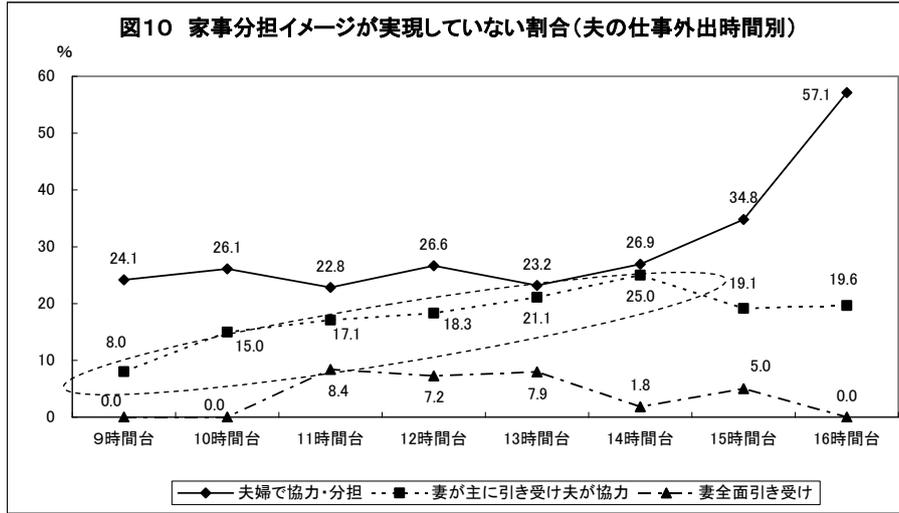


<sup>7</sup> 30歳未満層で「夫婦で協力・分担」の割合が30代前半層より小さくなっているが、この層は調査時点までに30歳未満で既に結婚している層であり、必ずしもこの年代の世代全体の動向を反映していないことに留意する必要がある。(以下同様に30歳未満層には留保が必要である場合が多い。)

**(夫の仕事外出時間と家事分担イメージが実現していない割合)**

○夫の仕事時間が長くなるほど結婚時の家事分担イメージが「実現していない」とする妻の割合が上昇する傾向がみられる。(図 10)

夫の仕事外出時間別に家事分担イメージが「ほとんど実現していない」とする妻の割合をみると、結婚時に抱いていたイメージが「妻が主に引き受け夫が協力」である妻では、夫の仕事外出時間が9時間台のときの8.0%から時間が長くなるとともに上昇し、14時間台では25.0%に達している。また、「夫婦で協力・分担」をイメージしていた妻では、夫の仕事外出時間がそれほど長くない場合でも「ほとんど実現していない」とする割合は20%台半ばであり、14時間台までは同程度で推移するが、それを超える時間では急上昇している。



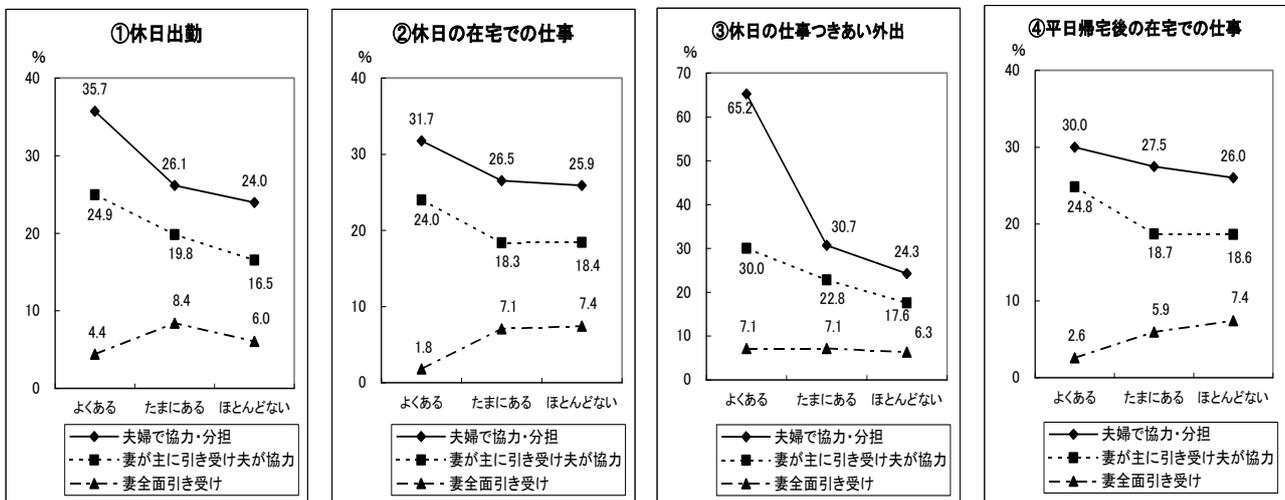
(注) 結婚時の家事分担イメージが「ほとんど実現していない」とする妻の割合である。  
「仕事外出時間」: 普段の出勤時刻から帰宅時間までの時間数(一部推計を含む。)

**(夫の定常外仕事行動頻度と家事分担イメージの非実現度)**

○夫の定常外仕事行動の頻度が高いほど家事分担イメージの非実現度が高くなる傾向がみられる。(図 11)

夫の定常外仕事行動の頻度別に家事分担イメージが「ほとんど実現していない」とする妻の割合をみると、その頻度が高いほど「夫婦で協力・分担」、「妻が主に引き受け夫が協力」いずれのイメージとも非実現の割合が高い傾向がみられる。例えば夫の「休日出勤」の頻度別に「夫婦で協力・分担」イメージについてみると、夫の「休日出勤」が「よくある」とする妻では35.7%、「たまにある」では26.1%、「ほとんどない」では24.0%となっている。

図11 結婚時の家事分担イメージが「ほとんど実現していない」とする妻の割合(夫の定常外仕事行動の頻度別)



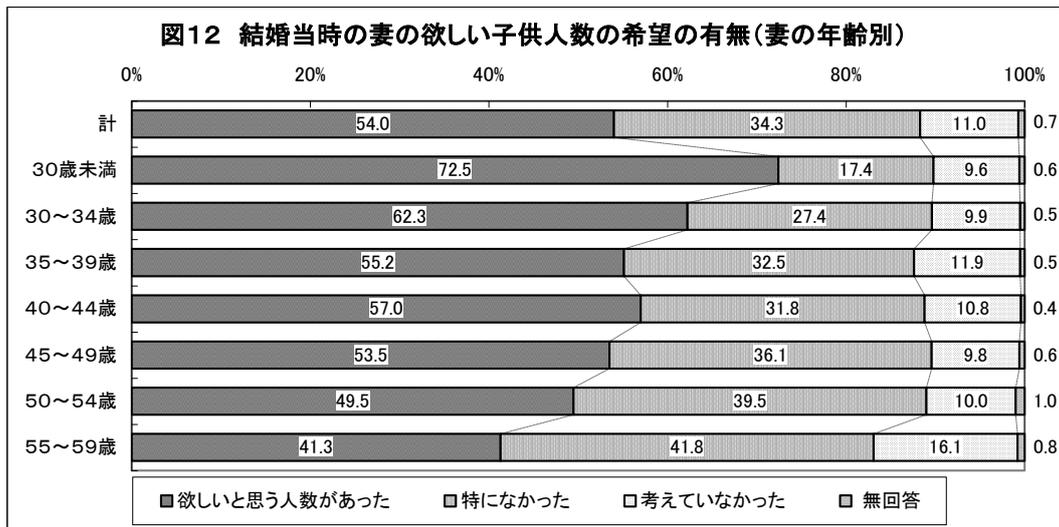
(注) グラフにより数値軸の目盛幅が異なることに留意されたい。

#### 4. 結婚当時における妻の欲しい子供人数希望とその実現度

##### (結婚当時妻が抱いていた欲しい子供人数の有無)

○半数強の妻は結婚当時欲しい子供人数の希望があったとし、若い層ほど希望があったとする割合は高くなっている。(図 12)

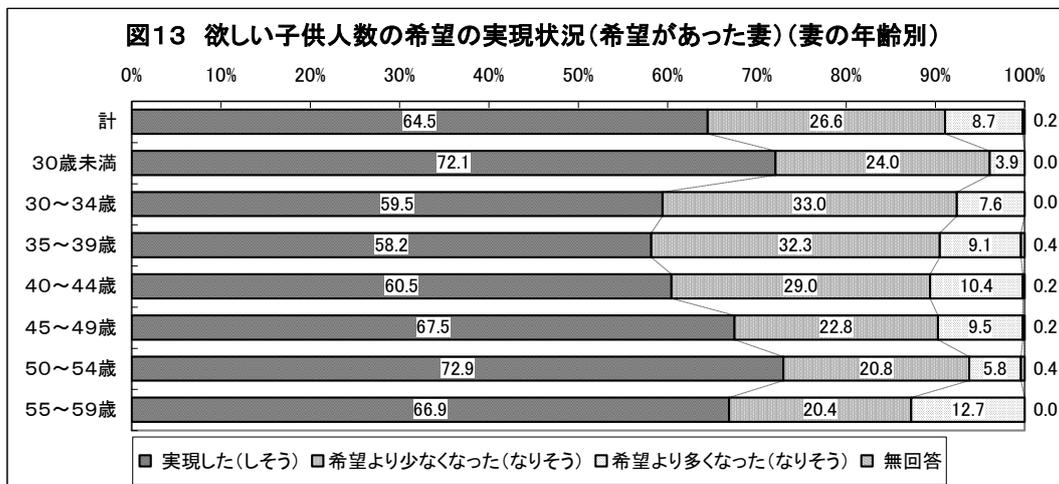
結婚当時欲しい子供の人数の希望があったとする妻は 54.0%となっており、年齢別にみると、50代では50%を切っているのに対して30代前半では60%を超えているなど、若い層ほど子供人数希望があったとする妻の割合が高くなる傾向がみられる。



##### (子供人数希望の実現状況)

○子供人数希望が実現したとする妻が多いが、希望よりも少なくなったとする妻も4分の1程度いる。若い層ほど少なくなったとする割合が高くなる傾向がみられる。(図 13)

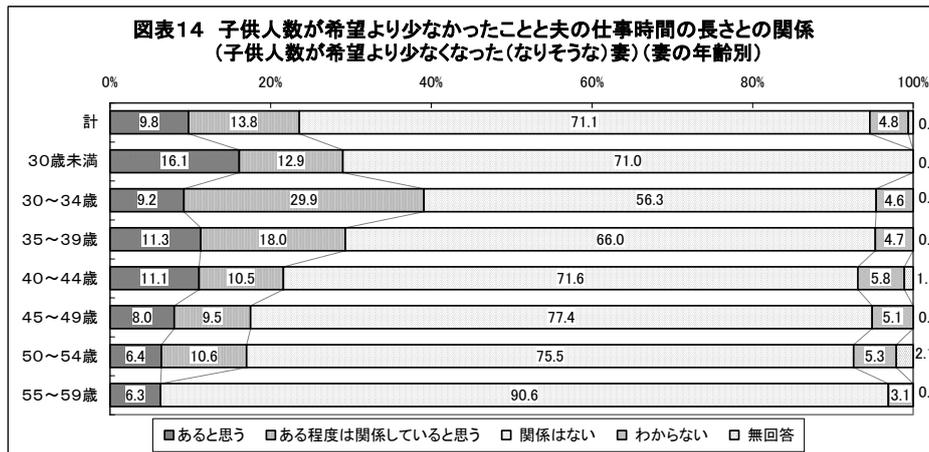
結婚当時抱いていた欲しい子供人数の希望が「実現した(しそう)」とする割合は 64.5%と多くなっているが、一方「希望より少なくなった(なりそう)」とする妻も 26.6%と4分の1程度いる。年齢別に「希望より少なくなった(なりそう)」とする割合をみると、50代では20%程度にとどまっているのに対して40代前半では29.0%、30代では30%を超えており、若い層ほど割合が高くなる傾向がみられる。



**(子供人数希望より少なくなったことへの夫の仕事時間の影響)**

○子供人数が希望よりも少なくなったことの原因の一つとして夫の仕事時間の長さがあると思う妻が2割程度おり、若い層ほどそう思う割合が高くなっている。

子供人数が希望よりも少なくなった(なりそうな)妻に、その理由の一つとして夫の仕事時間の長さがあると思うかどうかを尋ねた結果をみると、「関係はない」とする妻が71.1%と多くなっているものの、「あると思う」とする妻が9.8%、「ある程度は関係している」13.8%と、両者合わせて2割程度となっている。年齢別にみると、若い層ほど関係があると思う割合が高くなる傾向がみられ、30代前半層では4割程度となっている。



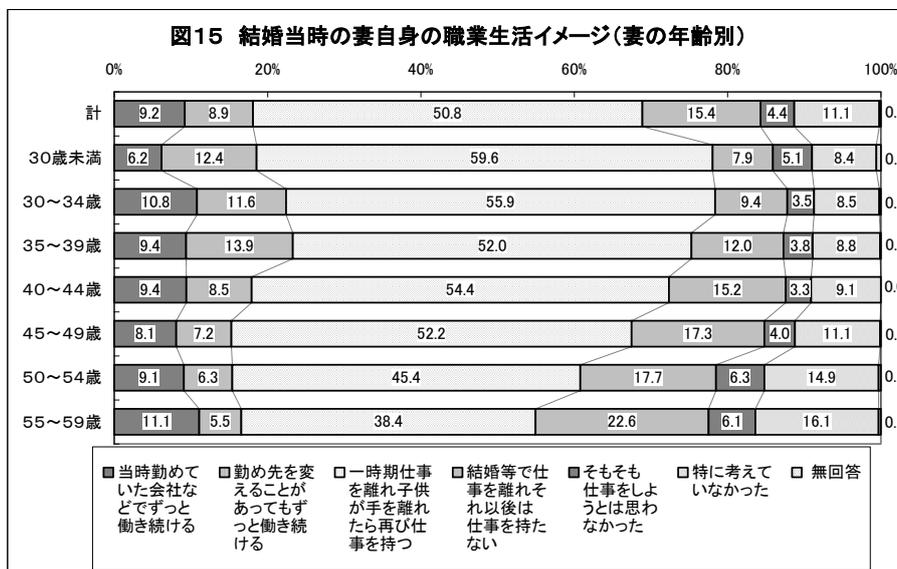
(注)子供の人数が、結婚当時の希望よりも少なくなった(なりそうな)理由の一つとして、夫の仕事時間が長いことがあると思うかどうかを尋ねた結果である。

**5. 結婚当時の妻自身の就業継続希望とその実現度**

**(結婚当時の妻自身の職業生活イメージ)**

○結婚当時に就業継続を希望していた妻は2割弱であり、若い層で高い傾向がみられる。(図15)

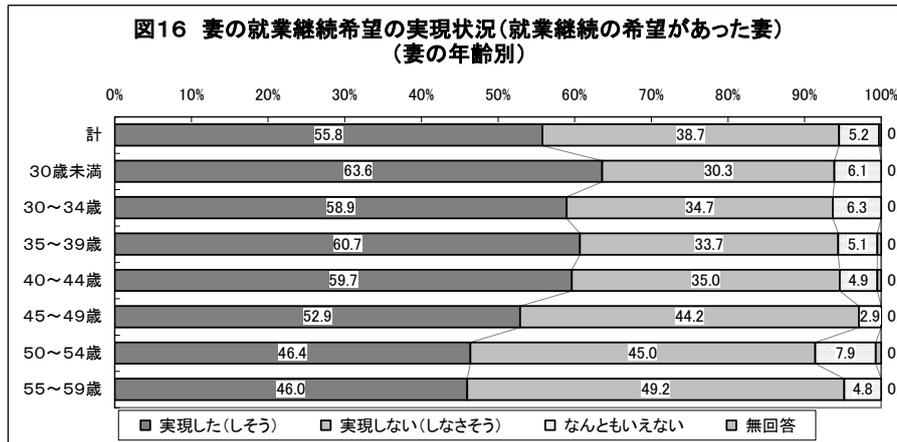
結婚当時の妻自身の職業生活イメージをみると、「一時期仕事を離れ子供が手を離れたら再び仕事を持つ」が50.8%でもっとも多く、次いで「結婚等で仕事を離れそれ以後は仕事を持たない」が15.4%となっている。生涯的に就業継続を希望しているとみられる「当時勤めていた会社などでずっと働き続ける」(9.2%)や「勤め先を変えることがあってもずっと働き続ける」(8.9%)を合わせて18.1%となっている。年齢別にみると、若い層ほど就業継続を希望する割合が高くなる傾向がみられる。



### (妻の就業継続希望の実現度／妻の年齢別)

○結婚当時に就業継続希望があった妻で希望が実現したとする割合は半数を超えているが、実現しないとする妻も4割近くいる。(図16)

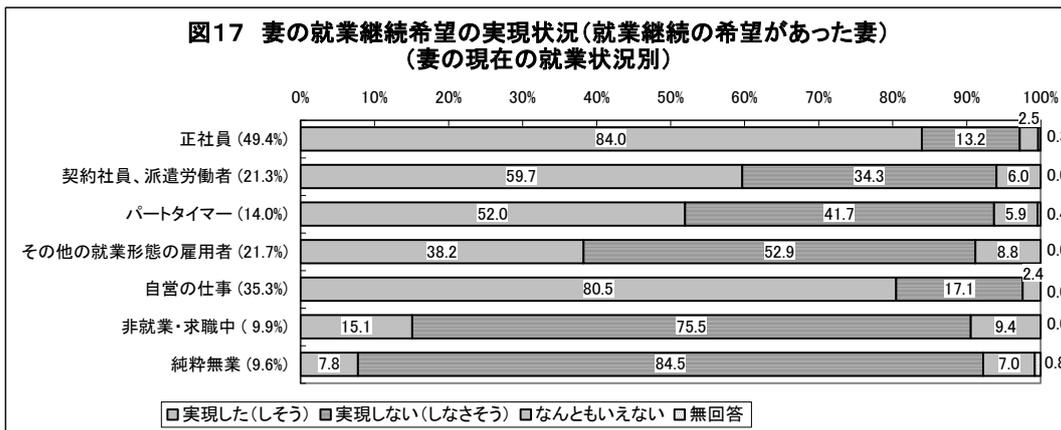
結婚当時に就業継続希望があった妻のうちその希望が「実現した(しそう)」とする割合は55.8%と半数を超えているが、一方「実現しない(しなさそう)」とする割合も38.7%と4割近くとなっている。年齢別に「希望した(しそう)」とする割合をみると、50代は4割台半ば、40代後半は5割台前半であるのに対して40代前半や30代では6割前後であり、若い層ほど高くなっている<sup>8</sup>。ただし、30代や40代前半層のなかでは大きな違いや傾向はみられずほぼ横ばいで推移している。



### (妻の就業継続希望の実現度／妻の現在の就業状況別)

○現在正社員として就業している妻では就業継続の希望を実現できたとする割合が高い。(図17)

妻自身の現在における就業状況別に就業継続希望の実現状況をみると、正社員では84.0%が「実現した(しそう)」としているのに対して、「契約社員、派遣労働者」では59.7%、「パートタイマー」52.0%などとなっている。また、自営の仕事をしている場合は80.5%と、正社員の場合とほぼ同様に実現度が高くなっている。



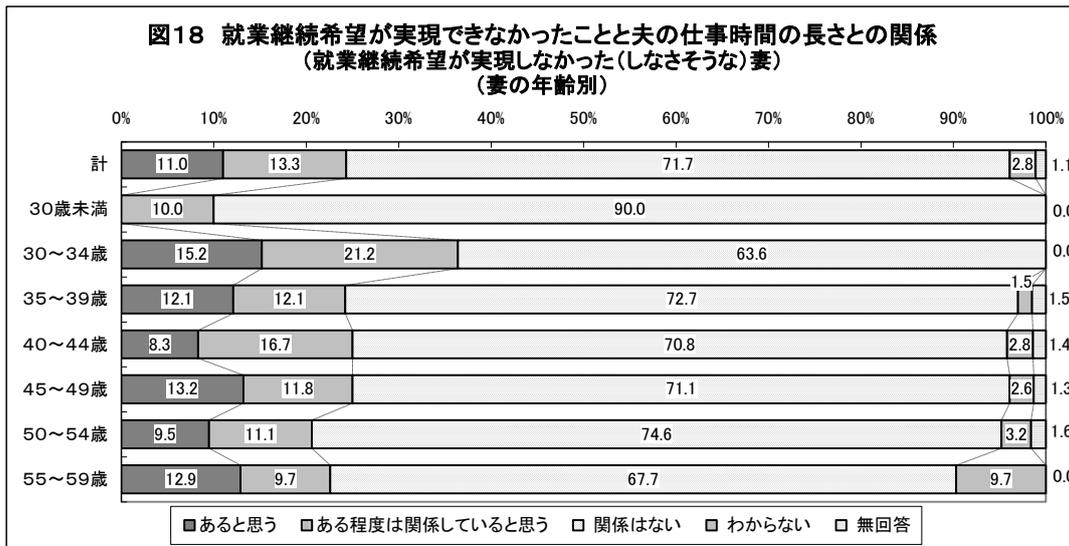
(注) 項目の( )内の数値は、当該就業状況にある妻の中で結婚時に就業継続の希望があった割合である。

<sup>8</sup> 若い層では就業継続の実現のために乗り越えなければならない事象(長子、第二子の誕生など)をいまだ経験していない場合が少なくないことから割り引いて考えなければならない。

**(就業継続希望の非実現への夫の仕事時間の影響／妻の年齢別)**

○就業継続希望が実現しないことの原因の一つとして夫の仕事時間の長さがあると思う妻が4分の1程度いる。(図18)

就業継続希望が実現しなかった(しなさそう)とする妻に、その理由の一つとして夫の仕事時間の長さがあると思うかどうかを尋ねた結果をみると、「関係はない」とする妻が71.7%と多くなっているものの、「あると思う」が11.0%、「ある程度は関係している」13.3%と、両者合わせて24.3%となっている。年齢別にみると、30代前半層で関係があると思う妻が36.4%と他よりも突出して高くなっている。結婚後さほど年数が経っていない段階で就業継続希望が実現しなかった場合に、夫の仕事時間の長さとの関係が強く表れていることが窺われる。

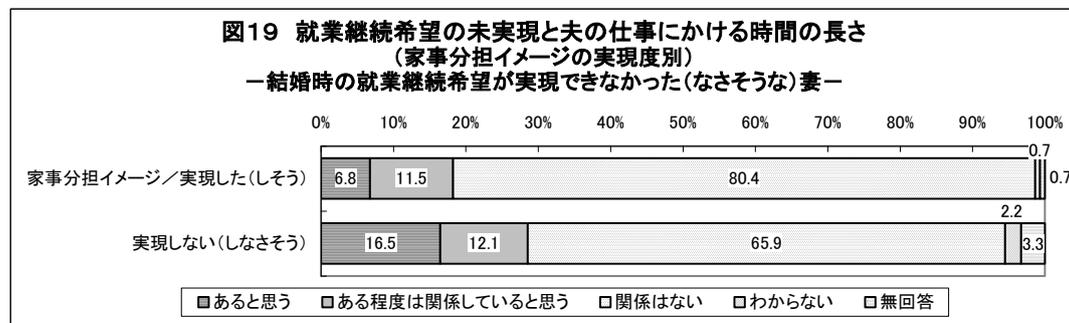


(注) 妻の就業継続希望が実現しなかった(しなさそう)理由の一つとして、夫の仕事時間が長いことがあると思うかどうかを尋ねた結果である。

**(就業継続の非実現への夫の仕事時間の影響／家事分担イメージの実現状況別)**

○妻の就業継続希望が実現しなかったことへの夫の仕事時間の影響を挙げる妻の割合は、家事分担イメージが実現したとする妻よりも家事分担イメージが実現しないとする妻の方が高くなっている。(図19)

就業継続希望が実現しなかったことへの夫の仕事時間の影響を挙げる妻の割合を家事分担イメージの実現の有無別にみると、家事分担イメージが「実現した(しそう)」とする妻では18.3%となっているのに対して、「実現しない(しなさそう)」とする妻では28.6%と後者の方が高くなっている。就業継続希望が実現しないことと夫の仕事時間の長さとの関連の一つのルートとして、夫の長時間の仕事→家事負担の妻への集中→就業継続の断念といった連鎖を考えることができる。



(注) 結婚時の就業継続希望が実現できなかった(なさそう)ことの原因として、夫の仕事にかかる時間の長さが関係あると思うかどうかを尋ねた結果である。

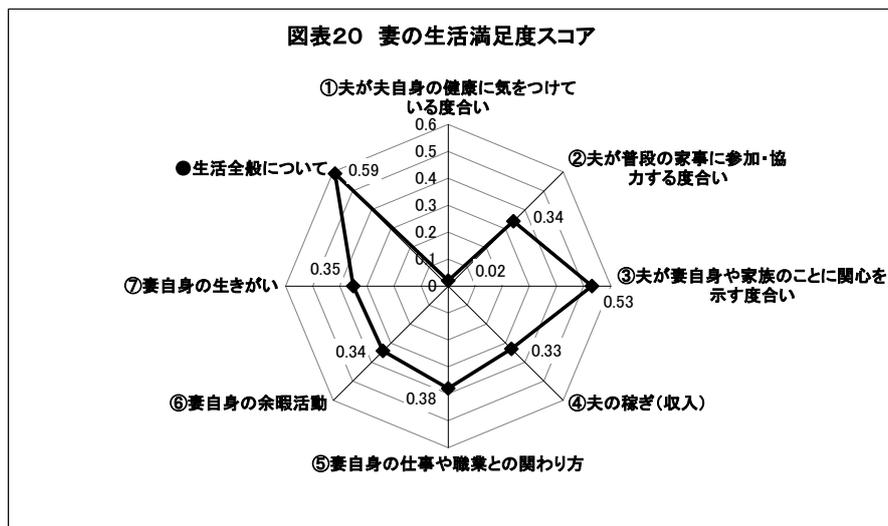
## 6. 妻の満足度

### (妻の満足度の概観)

○妻の満足度は、生活全般及び各側面の満足度ともまあまあ満足域にあるが、「夫が夫自身の健康に気を付けている度合い」に対する満足度のみ満足と不満との境界域近くにあり、相対的に低い満足度となっている。(図 20)

調査では、「生活全般について」及び7つの側面に関する妻の満足度を「満足している」から「不満である」まで4件法で尋ねた。「生活全般について」の結果をみると、「満足している」が13.7%、「まあまあ満足している」61.1%、「少し不満である」20.3%、「不満である」4.5%となっている(無回答0.4%)。選択肢のそれぞれに2点から-2点までのスコアを与えて構成比(無回答を除く)で加重平均して分布の重心をみると、0.59と算定され「まあまあ満足」域の中央よりやや「満足している」方向に寄った位置となっている。(以下、スコアの加重平均値を「スコア値」という。)

それぞれの側面に関する満足度についても同様にスコア値を試算すると、「夫が妻自身や家族のことに関心を示す度合い」が0.53と相対的にもっとも高く、「妻自身の仕事や職業との関わり方」など他の項目では0.3台半ばから後半となっている中で、「夫が夫自身の健康に気を付けている度合い」に関しては0.02とほぼ満足域と不満域との境界にあり、低くなっている。夫に対して夫自身の健康にもっと気をつけて欲しいと思っている妻が多いことが窺われる。



(注) スコアは、「満足している」に2点、「まあまあ満足している」に1点、「少し不満である」に-1点、「不満である」に-2点を与え、それぞれ構成比(無回答を除く)で加重平均したもの。

### (夫の仕事外出時間別にみた妻の満足度)

○夫の仕事外出時間別に妻の満足度をみると、夫の行動面に関する満足度は夫の仕事外出時間が長くなるほど満足度は低下する傾向がみられる。とりわけ「夫自身の健康配慮度」は13時間台以上になると不満域となる。一方、生活全般満足度を含めて妻自身の生活に関する満足度は夫の仕事外出時間とあまり感応的ではないが、14時間台を超えるといずれも急激に低下する。(図 21)

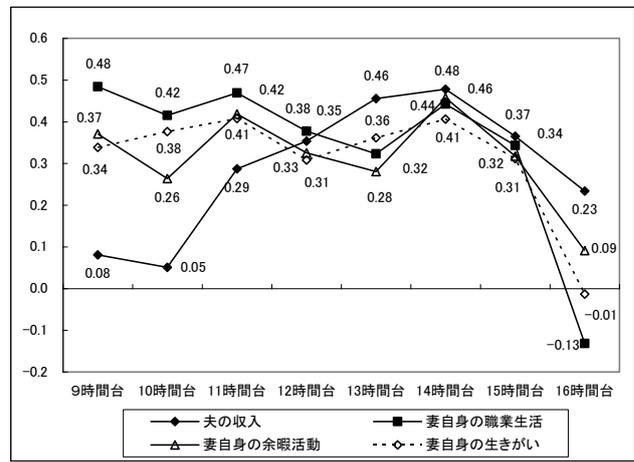
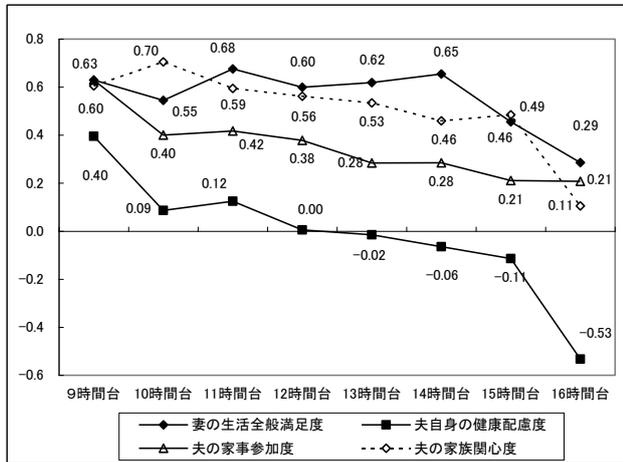
普段の日における夫の仕事外出時間別に妻の満足度(スコア値)をみると、「夫自身の健康配慮度」や「家事参加度」、「家族関心度」といった夫の行動面に関する妻の満足度は、仕事外出時間が長くなるほど低下する傾向がみられる。例えば相対的に満足度の高い項目である「家族関心度」についてみると、仕事外出時間が10時間台の場合は0.70となっているのに対して、13時間台では0.53、16時間台では0.11まで時間が長くなるにつれて順次ほぼ低下している。中でも「夫自身の健康配慮度」については、13時間台では-0.02と不満域になり、16時間台では-0.53まで低下している。

一方、生活全般満足度を含めて妻自身の生活に関する満足度は、夫の仕事外出時間が14時間台まではジ

グザグを示しながらもほぼ横ばい域で推移しており、あまり感応的ではないが、14 時間台を超えるといずれの項目も急激に低下している。その中で、夫の仕事外出時間が 16 時間台では「妻自身の職業生活」や「妻自身の生きがい」については不満域となっている。

なお、「夫の収入」に関する満足度は、夫の仕事外出時間が 14 時間台までは時間が長くなるほど高くなるが、それを超えると他の項目同様満足度は急激に低下している。

図21 妻の満足度スコア(夫の仕事外出時間別)

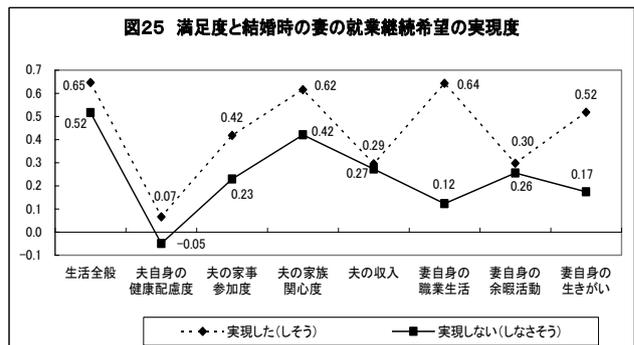
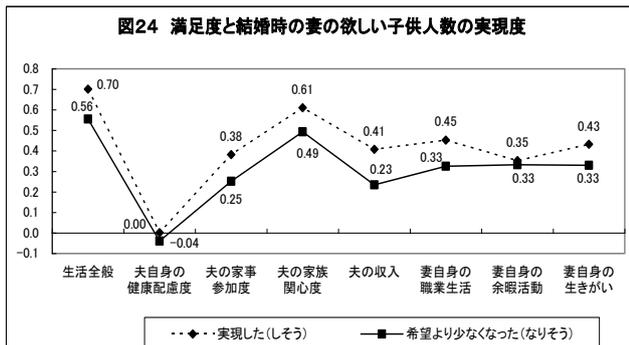
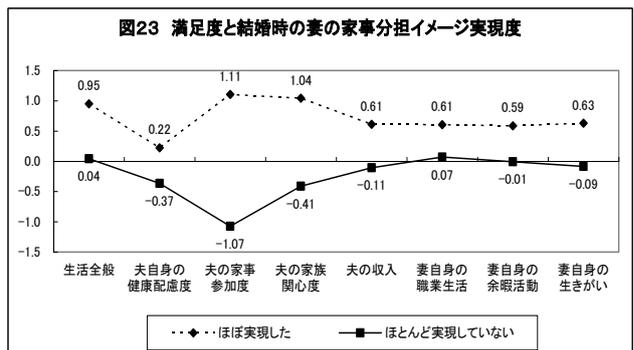
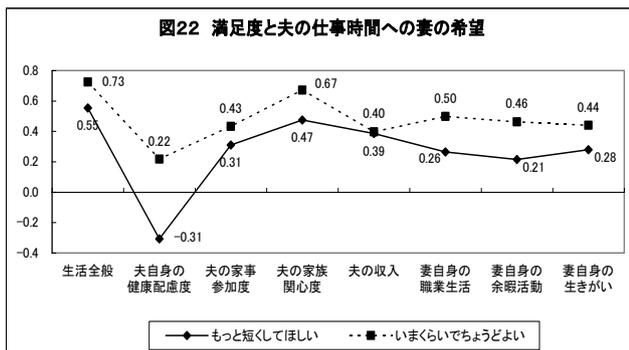


(注)「仕事外出時間」: 普段の出勤時刻から帰宅時間までの時間数(一部推計を含む。)

(夫の仕事時間に対する妻の希望と妻の満足度)

○夫の仕事時間を「短くして欲しい」とする妻の満足度は、「いまくらいでちょうどよい」とする妻の満足度よりも総じて低くなっており、とりわけ「夫自身の健康配慮度」での差が大きくなっている。(図 22)

夫の仕事時間を「短くして欲しい」とする妻と「いまくらいでちょうどよい」とする妻とで満足度(スコア値)を比較すると、「夫の収入」を除いていずれの項目も「短くして欲しい」とする妻の方が総じて満足度が低くなっている。とりわけ「夫自身の健康配慮度」については両者のスコア値の差が 0.53 ポイントと大きいとともにスコア値が -0.31 と不満域となっている。また、「妻自身の余暇活動」や「妻自身の職業生活」に関する満足度において、両者の差(それぞれ 0.25、0.24)が他の項目でよりも相対的に大きくなっている。



### **(結婚当時における妻の家事分担イメージの実現度と満足度)**

○結婚当時に妻が抱いていた家事分担イメージが「ほぼ実現した」とする妻に比べ「ほとんど実現していない」とする妻は、総じて満足度が低くなっている。とりわけ「夫の家事参加度」や「夫の家族関心度」などで両者の差が大きい。(図 23)

結婚当時に妻が抱いていた家事分担イメージが「ほぼ実現した」とする妻と「ほとんど実現していない」とする妻とで満足度を比較すると、後者の方が総じて満足度が低くなっている。とりわけ「夫の家事参加度」や「夫の家族関心度」については両者のスコア値の差(それぞれ 2.18、1.45 ポイント)が大きいとともにスコア値(同 -1.07、-0.41)が不満域となっている。

### **(結婚当時における妻の希望子供人数の実現度と満足度)**

○結婚当時に妻が欲しいと思っていた子供人数が「実現した(しそう)」とする妻に比べ「希望より少なくなった(なりそう)」とする妻は、総じて満足度が低くなっている。(図 24)

結婚当時に妻が欲しいと思っていた子供人数が「実現した(しそう)」とする妻と「希望より少なくなった(なりそう)」とする妻とで満足度を比較すると、後者の方が総じて満足度が低くなっている。両者の差が目立って大きな項目はないが、「夫の収入」(0.18 ポイント差)や「夫の家事参加度」(0.13 ポイント差)で相対的にやや大きな差がみられている。

### **(結婚当時における妻の就業継続希望の実現度と満足度)**

○結婚当時に妻が就業継続を希望していた場合にそれが「実現した(しそう)」とする妻に比べ「実現しない(しなさそう)」とする妻は、総じて満足度が低くなっている。とりわけ「妻自身の職業生活」や「妻自身の生きがい」などで両者の差が大きい。(図 25)

結婚当時に妻が就業継続を希望していた場合にそれが「実現した(しそう)」とする妻と「実現しない(しなさそう)」とする妻とで満足度を比較すると、後者の方が総じて満足度が低くなっている。とりわけ「妻自身の職業生活」の満足度に大きな差(0.52 ポイント)がみられ、また、「妻自身の生きがい」での差(0.35 ポイント)も大きくなっている。

## **7. 妻の求める夫の時短方法**

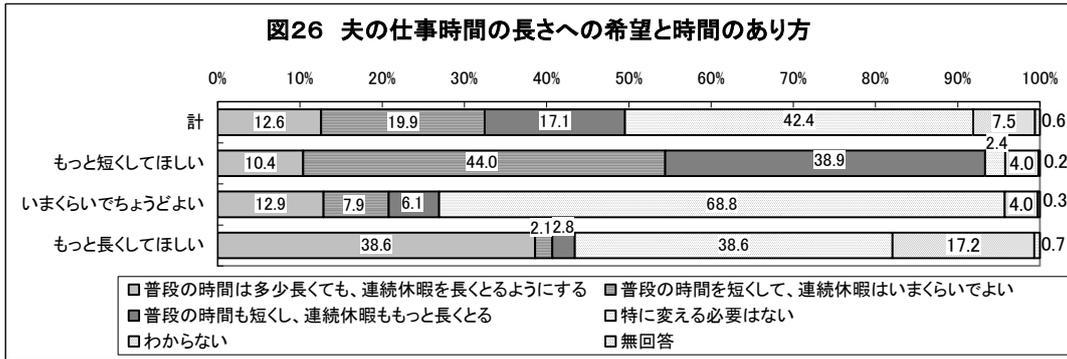
○妻の求める夫の仕事時間の短縮方法は、普段の時間短縮、連続休暇を長くする、又はその両方と区々である。(図 26)

夫の仕事時間の長さについては、「特に変える必要はない」とする妻が 42.4%となっている一方で、何らかの時短を行うとしたとき、「普段の時間を短くして、連続休暇はいまくらいでよい」(「普段の時短希望」)が 19.9%、「普段の時間も短くし、連続休暇ももっと長くとり」(「普段の時短も連続休暇も希望」)17.1%、「普段の時間は多少長くても、連続休暇を長くとりようにする」(「連続休暇希望」)12.6%となっている。

### **(夫の仕事時間への希望と時短方法)**

○夫の仕事時間を「もっと短くして欲しい」とする妻は普段の時短と連続休暇いずれか又は両方を求めており、また、「いまくらいでちょうどよい」や「もっと長くして欲しい」とする妻でも連続休暇を求める妻が少なくない。それぞれ置かれている状況に応じた時短が希望されていることが窺われる。(図 26)

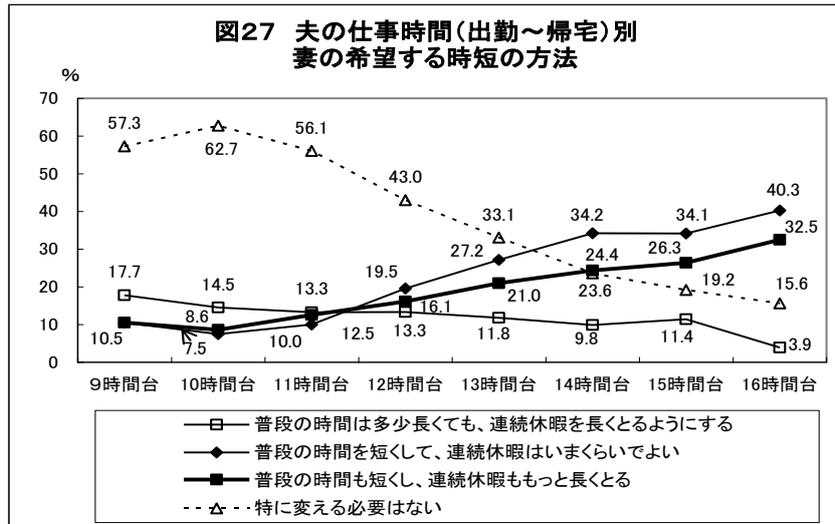
夫の仕事時間を「もっと短くして欲しい」とする妻では、「普段の時短希望」が 44.0%ともっとも多くなっているものの「普段の時短も連続休暇も希望」も 38.9%と多く、普段の時短と連続休暇いずれか又は両方を求めている。また、夫の仕事時間を「もっと長くして欲しい」とする妻でも「連続休暇希望」が 38.6%、「いまくらいでちょうどよい」とする妻でも同希望が 12.9%あり、連続休暇をより長くとりを求める妻が少なくない。



**(夫の仕事外出時間の長さ与时短方法)**

○夫の仕事外出時間が長くなるほど夫の仕事時間を「特に変える必要はない」とする妻の割合は減少し、代わって「普段の時短希望」や「普段の時短も連続休暇も希望」の妻の割合が上昇している。(図 27)

夫の仕事外出時間別にみると、夫の仕事時間について「特に変える必要はない」とする妻の割合は、10 時間台の 62.7%から時間が長くなるに従って順次低下し、16 時間台では 15.6%となっている。また、「普段の時間は多少長くても」とする「連続休暇希望」の割合も時間が長くなるに従って緩やかに低下している。一方、夫の仕事外出時間が 9～11 時間台においては 10%程度である「普段の時短希望」や「普段の時短も連続休暇も希望」とする割合は、時間が長くなるに従って順次上昇し、16 時間台（それぞれ 40.3%、32.5%）では両者合わせて 70%を上回っている。



(注)「仕事外出時間」: 普段の出勤時刻から帰宅時間までの時間数(一部推計を含む。)

**(過去1年間における連続休暇の有無与时短方法)**

○過去1年間に夫に連続休暇がなかった妻は、時短方法として連続休暇を求める割合が高い。(図 28)

過去1年間に1週間以上の連続休暇が夫になかった妻は、あった妻に比べて、「普段の時短希望」(15.4%/9.0%)や「普段の時短も連続休暇も希望」(21.2%/11.6%)を求める割合が相対的に高くなっている。

